

指導案・提案資料

① 指導案

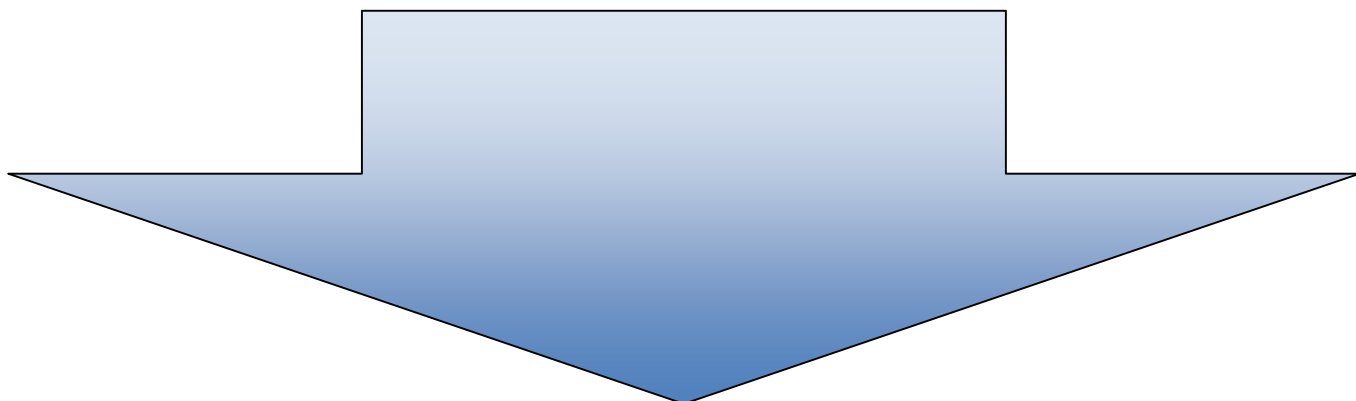
② 提案資料

※ 第100回教育研究発表会の紀要に掲載している指導案と、本実践に関わる提案資料です。

※ 提案資料は、指導案の補助的なものとして研究会当日に配布したものです。本提案資料は「教材の宝箱」版として、一部修正を加えています。

※ 本実践に関するご意見・ご質問につきましては、本校研究部までお願いします。

メールアドレス→sakashokenkyu@ed.kagawa-u.ac.jp



第5学年東組 道徳の時間 学習指導案

学習指導者 山本 健太

- 1 主題名 本当の友情〔友情, 信頼〕
- 2 教材名 ロレンゾの友達 (学研『みんなの道徳』6年)
- 3 育成したい「思考力」と、それに関わる子どもたちの実態

【育成したい「思考力」】

嫌疑をかけられた親友のロレンゾに、どのように接するべきかという問題を自分自身の問題として受け止め、自らの課題を見つけたり、自らのよさを実感したりして、友達を信頼してよりよい人間関係を築いていこうとする力

高学年の子どもたちは、心身の成長に伴って、友達関係で悩むことも増えてくる。充実した生活を送るためには、互いを認め合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育てていくことが大切である。本学級の子ども(男子18名, 女子16名)は、男女の仲もよく、さまざまな場面で協力し合って活動できている。また、『親友』と呼べる友達はいますかという「友達アンケート」の質問に、全員が「はい」と回答しているが、その理由として「気が合って、休み時間に一緒に遊んでくれるから」等と、一面的な見方にとどまっている子どもが半数以上を占めている。

本教材文に登場する、アンドレ・サバイユ・ニコライの3人は、会社のお金を盗んだ疑いのあるロレンゾを「逃がす」べきか「自首を勧める」べきか葛藤する。このような葛藤する友達の姿をロレンゾが知ったと仮定すると、例えば、逃げることを勧めてくれた場合は、「僕をかばうことで警察に疑われるかもしれないのに、何か事情があるに違いないと信じてくれて嬉しいよ」という考えや、自首を勧めると言ってくれた場合は、「僕が逃げ続けて苦しまないように、正しい方向に導こうとしてくれたんだね」等の考えが表出されるだろう。そして、どちらの考えにも、根底に友達の幸せを願ったり、信頼したりする気持ちがあることに気付くことで、互いを理解し合い、相手を信じて行動することの素晴らしさを感じられるようにしたい。このような学びを通して、「友達が僕のことを考えて注意してくれていたのに、友達の思いを考えずに腹を立ててしまったことがあるよ」等と自らの課題を見つけたり、「友達のことを思って、よいことはよい、悪いことは悪いと伝えることができているよ」等と自らのよさを実感したりしながら、友達を信頼してよりよい人間関係を築いていこうとする力を育成したい。

4 主張点

(1) 他者と協働しながら考え続ける力を育むための働きかけ ～対立軸に自分を位置づける～

板書上で「アンドレ(逃がす)」を黄色、「ニコライ(自首を勧める)」を青色で対立軸の対極に示し、その間にグラデーションで「サバイユ(まず話を聞いてから、逃がすか自首を勧めるかを判断する)」を緑色で示す。このように登場人物と考えを示した後、「自分はどの人物の考えに近いですか」と、選択を促す発問をする。その際、各自の名前磁石を板書上に位置づけさせることで、友達との考えの異同を視覚的に捉えさせ、友達がなぜそう考えたのかを聞きたいという思いを高められるようにする。

(2) 学習意欲を育てるための働きかけ ～自分の経験とつなぐ～

本教材は、5年生の実生活とかけ離れている部分が多い。そこで、自分事として考えられるようにするために、ロレンゾ側の視点に立って気持ちを語らせるロールプレイを行う。その際、上記対立軸に示された、「逃がす」べきか「自首を勧める」べきかと、葛藤してくれている友達の姿をロレンゾが見たとしたら、どんな気持ちになったか、どうしてそのような気持ちになったかを問う。そうすることで、友達への信頼の気持ちを表出させ、相互の信頼関係が見えるようにしたい。

(3) 評価の工夫 ～友達との交流で考えの深まりを実感する～

振り返りでは、事前に各自記述している「友達アンケート」の「親友だと言える理由」の項目に、本時の学習を生かして加筆させる。そして、加筆部分を子どもどうしで読み合い、記述の中から互いの考

えのよさを見つけ、肯定的なコメントを書き合う活動を行う。このような相互評価により、称賛し合ったり、友達の見方に触れたりする中で、自己の考えの深まりを実感させたい。また、相互評価を学期末の振り返りの場においても実施し、互いに成長していることを子どもも教師も見取っていくようにする。

5 学習指導過程

学習活動	子どもの意識	教師の働きかけ
1 教材文を読み、学習課題を設定する。	・3人は犯罪を犯したかもしれない ロレンゾを思って、最初から最後までずっと考え続けているね。	・範読中、挿絵等を板書に位置づけ、時代背景や、場面の様子等が捉えられるようにする。
友達としてどんな考えで接すればいいのだろう		
2 3人が考える対応のうち、どの考えが自分に近いかを選択し、その理由を話し合う。	[サバイユ（本人に聞いてから、逃がすか自首を勧める）] ・ロレンゾの話を聞いてから、逃がすべきか、自首を勧めるべきか判断することが大事だよ。 [アンドレ（逃がす）] ・自首せずに逃げているのは、よっぽどの理由があるはずだから、彼を信頼して逃がすと思うよ。 [ニコライ（自首を勧める）] ・友達が逃げ続けて苦しむより、警察に事情を話す方がいいと思う。	・「逃がす」を黄色、「自首を勧める」を青色、その間で揺れ動く考えが視覚的に捉えられるようにグラデーションで色分けして登場人物とその考えを板書に示す。その後、「自分の考えは、どの考えに近いですか」と問いかけてから、名前磁石を位置づけさせることで、自分と友達の考えの異同を視覚的に捉えさせ、考えの理由を聞きたいという気持ちを高められるようにする。 <協働>
3 3人の葛藤する姿を知ったロレンゾの気持ちを考え、その理由を話し合う。	・答えのない、難しい問題だね。 ・逃がすと言ってくれたとき→かばったことで警察に疑われるかもしれないのに、そこまで信じてくれているのは嬉しいよ。 ・自首を勧められた時→僕が逃げ続けて苦しまないように、正しい方向に導いてくれたんだね。 ・どちらにしろ、僕のことを考えてのことなんだね。 ・親友とは、互いに心から信頼して助け合う存在のことだね。	・ロールプレイは、ロレンゾの立場に立ち、自分のことを思って葛藤してくれている友達のことを知ったとしたら、どういう気持ちになるかを語らせる。その際、教師がインタビューし、多様な意見を意図的に引き出す。その後、どの考えも互いに思い合っていることが視覚的に理解できるように、共通部分を強調したり、双方向の矢印を板書したりする。 <学習意欲>
4 本時の振り返りをする。	・注意された時に、友達の思いを考えず腹を立てたことがあったよ。 ・A君は、自分のことを素直に振り返ることができているね。 ・相手の立場に立って助けてあげることができた時もあったよ。 ・Bさんはいつも周りに気を配って困っている友達を助けているね。	・「友達アンケート」の「親友と言える理由」に加筆し、それを子どもどうしで読み合い、肯定的なコメントをノートに書き合う場を設定する。友達と相互評価を行うことで、自己の考えの深まりを実感させる。 <振り返り>

6 評価

よりよい友達関係を築くためには相手の考えを尊重して関わるのが大切だと知り、今の自分を振り返って、自分の課題やよさを見つけている。 [道徳ノート、発言]

ロレンゾ
 将来のことまで考えてくれてうれしー！
 自分の考えを信じてくれてありがとー！

アンディ
 友達をへばで逃がす
 四人はお互いに心から信じ合ってる
 もう犯人ではないと分かった

サバイユ
 自首をすすめるか
 ロレンゾの話をしっかり聞きたい
 ロレンゾを助けたー！
 納得しななら逃がさず
 友達はうれない！
 親友のロレンゾには「よほどの理由がある」自分で考えて正しい判断ができるはず
 ロレンゾの考えも大切

ニライ
 自首をすすめる
 けいさつに知らせる
 ロレンゾのため
 将来のため
 罪をつぐなてほしい
 罪は罪
 逃げ続ける方がだめ
 正直なロレンゾでいてほしい

学 友達としてどんな考えて接すればいいだろうか
 まだ犯人かどうか分からない
 ロレンゾが罪を犯して帰ってきたとしたら

子どもたちが相互評価して付箋に書いた振り返りを発表します。

友達アンケート

（右側を授業前に、左側を本時の終末に書きます）

	・あなたにとって親友はどんな存在ですか？
--	----------------------

心のグラデーション

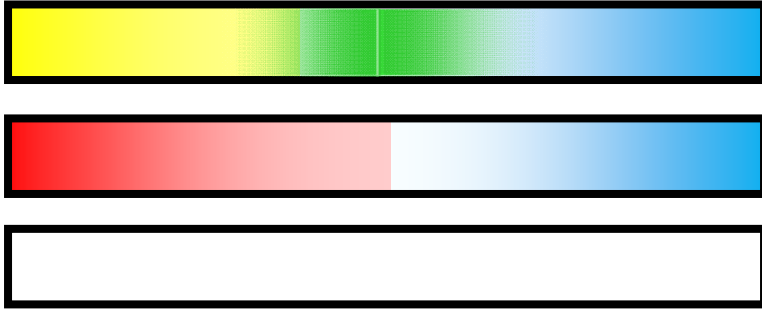
（自分の考えに近い場所にピンを付けます）

逃がす

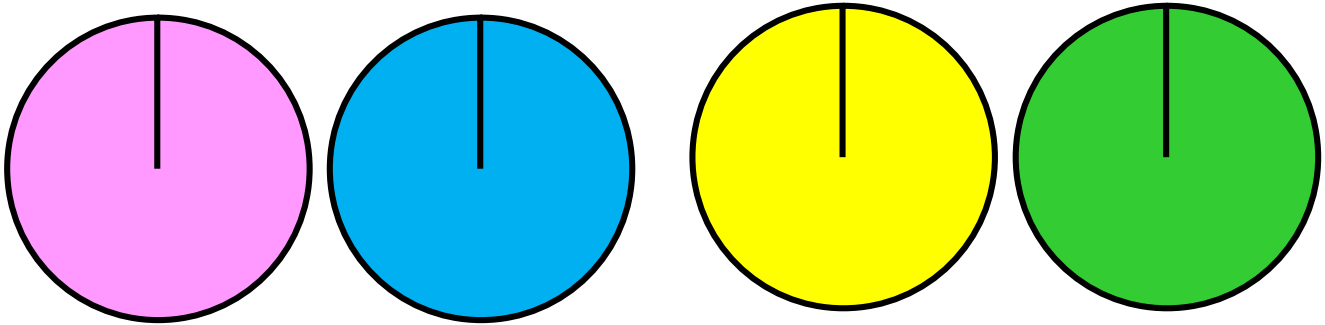
自首を勧める

心を育てるツール

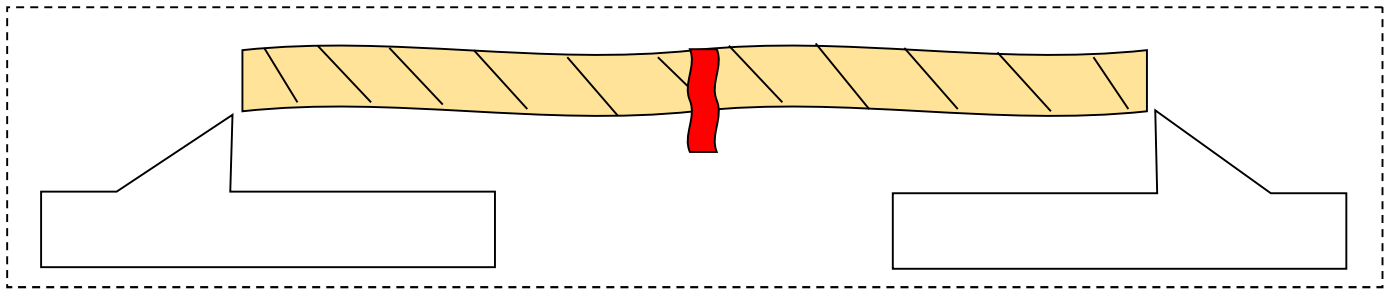
① 心のグラデーション



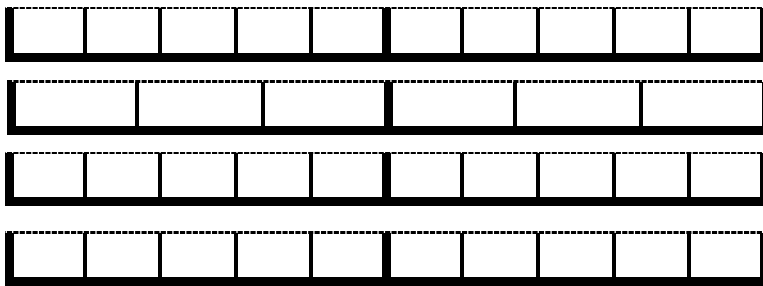
② 心情円盤



③ 心の綱引き



④ 心の物差し



⑤ ハート

